

「人間としては正しい行動だった」

1940年、リトアニアの領事館に杉原千畝氏が赴任していた時のことです。ドイツ軍がポーランドに侵攻して、第二次世界大戦が始まりました。リトアニアはソ連軍に占領され、彼は領事館の明け渡しを要求されます。明け渡し期日の1ヶ月前、杉原氏は領事館の周りに1000人以上の人が集まっているのに気がつきました。集まっていたのはナチスの迫害を恐れ、ポーランドから逃げて来たユダヤ人たちです。彼らは日本を通過して他国に脱出するため、トランジットビザの発給を求めています。

当時、日本外務省の通達では必要な書類を持っていない人に対してはトランジットビザを発券しないということになっていました。

当然、ポーランドから必死に逃げて来た彼らは、必要な書類など持っていません。杉原氏は彼らを何とか助けたいと思い、日本政府に例外を認めてほしいとお願いします。しかし、日本政府からの返事は、

「大集団の入国は公安上、問題があるので発券してはいけません」

ということでした。彼らの人数は日増しに増えてきましたが、黙って見守ることしかできません。悩んだ杉原氏は、

「ビザを出そうと思うけれど、どう考える？」

私たちもただではすまない。
連れて行かれるかもしれない、みんな捕まるかもしれない。」

と奥さんに相談します。

「私たちはどうなるか分かりませんが、そうしてあげてください」

という返事でした。杉原氏はユダヤ人たちの前に出ると

「皆さんに、日本の通過ビザを発行することになりました」

と発表しました。一瞬、静まり返った後、大きなよめきが起こり、ユダヤ人たちは飛び上がって喜びました。子供をしっかりと抱きしめて、涙を流している母親の姿もありました。

次の日から杉原氏は食事もろくに取らず、朝から晩まで手が動かなくなるまでビザを書き続けました。リトアニアを去る日も、ベルリンに向かう列車の中からホームに群がる彼らにビザを書き続けました。ホームでビザを受け取った彼らは、

「スギハラ 私たちはあなたを絶対に忘れない。ありがとう ありがとう」

と、何度も涙で頬を濡らしながら叫んでいました。

出発の時間になって杉原氏が、

許して下さい。もうこれ以上は書けない」

というまでに書いたビザは合計で2139枚。

命を救われた人は6000人以上になりました。

その後、彼は外務省から退職を勧告されて職を転々としますが、ユダヤ人へのビザの発給については、誰にも話しませんでした。

1968年、ユダヤ人たちにビザを発券してから28年後、イスラエル大使館から杉原氏に連絡がありました。大使館に行くと、そこで待っていたのは、助けたいうちの一人でした。

外務省を辞めて消息が分からない杉原氏の行方を、ずっと探していたのです。

「これを覚えていますか？」

と言って彼が手に持っていたのは、杉原氏が書いたボロボロになったビザでした。

ユダヤ人たちは発行してくれたビザを宝物のように大切にしていたのです。

1985年、イスラエルのエルサレムの丘に、杉原氏の顕彰碑が建てられました。

彼は病気のために、イスラエルに行くことはできなくなっていました。代わりに出席した息子さんの手紙には、

握手をする手も休めないほどでした。皆、本当に心から感謝している目を見ると、僕はこんな立派な両親を持って幸せだと改めて思いました」

と書かれています。そして、彼は、

私のしたことは、外交官としては間違った行動だったかもしれない。

それでも、私には助けを求めている何千もの人たちを見殺しにすることはできなかった。

そして、それは人間としては正しい行動だった」

と話していました。

人生の目的に気づく「24の物語」中山和義著 フォレス出版

<経営のヒント>

外務省の通達を破り、自分と家族の命を賭けて仕事をした彼の心にあったのは、

「目の前の困っている人をどうしても助けたい」という精熱でした。

何のためにあなたは働いていますか？

「何のために働いているか分からない」と悩んでいる人は、

「人間としての正しい生き方」を見つめ直してみてもいいでしょうか？

日本人としての歴史を知ることが、アイデンティティに確立につながります。

世界では、日本は尊敬されている国です。

過去の日本人たちの行動や規範が世界の人たちに感動を与えたのです。

もっと日本人としての誇りと自信を持ちましょう！